

平成 28 年 度

医 学 部 看 護 学 科

推 薦 入 試 等

小 論 文

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子には、表紙を除いて問題用紙は2枚、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚あります。これらに不備がある場合は、ただちにその旨を監督者に申し出てください。
3. 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を記入してください。
4. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に横書きで記入してください。解答用紙の所定の欄以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としません。
5. 問題冊子および下書用紙は、試験終了後、持ち帰ってください。

実施年月日
27.12.14
富山大学

下書用紙

注意：この下書用紙に記入した解答は、採点の対象としないので持ち帰ってください。

2

			5				10				15				20			
																5		
																	10	
																		15
																		20

(20×20)

下 書 用 紙

Ⅰ 以下の説明文と図は、日本および諸外国の高校生を対象に行った調査報告である。

調査では、「親が高齢となり、あなたが世話をすることになった場合、どのようにしますか」と尋ねている。図はその結果を示したものである。これをみると、「どんなことをしてでも自分で親の世話をしたい」と回答した者の割合が、中国は9割弱に達しており、米国と韓国は5割台である。これに対し、日本は4割を切っている。一方、「経済的な支援をするが、世話は家族や他人に頼みたい」と回答した者の割合が、日本は2割強で、米国がそれに続き、中国と韓国では1割未満の低い数値である。また、韓国では、4人に1人が「親自身の力にまかせる」と回答し、他の3か国と大きな差がみられた。なお、日本では、3割強の高校生が「わからない」と回答している。

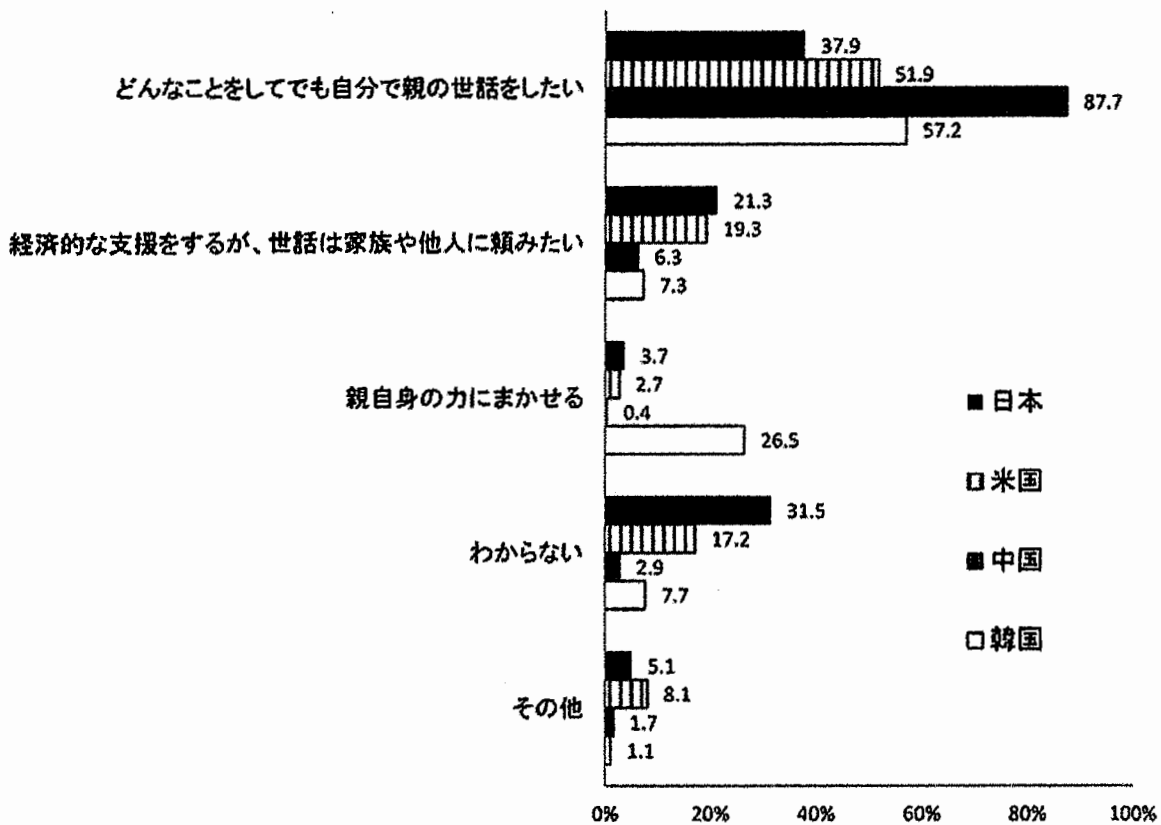


図 親が高齢となり、あなたが世話をすることになった場合、どのようにしますか (棒グラフは、上から順に日本、米国、中国、韓国)

出典：国立青少年教育振興機構；一高校生の生活と意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—平成27年8月28日

問1. 下線の背景について考えられることを100字以内で述べなさい。

問2. 今回の結果から考えられる日本の課題を300字以内で述べなさい。

- 2 次の写真には、医療者のロスさん（左側）と患者さん（右側）が写っています。
この患者さんになった自分を想像して、その日の日記を 400 字以内で書きなさい。



出典：E. キューブラー・ロス, M. ワルショウ 共著『生命ある限り 生と死のドキュメント』 産業図書 2004 年

